

第三編

平成 27 年度のトピックス

I 登録ECDIS講習の実施状況

1. 講習導入の経緯

平成22年(2010年)のIMO総会にて、STCW条約の改正が採択され、電子海図情報表示装置(ECDIS)搭載船舶の甲板部職員に当該装置の使用にあたっての知識・技能要件が追加された。この改正は平成24年(2012年)1月に発効し、平成29年(2017年)1月に完全施行されることになっている。

これを受けて国(国土交通省海事局)は平成23年(2011年)から二年間をかけて、本学部、東京海洋大学海洋工学部、5商船系高等専門学校、航海訓練所の教育・訓練機関と日本船主協会を代表とする海運業界との意見調整をはかり、平成25年(2013年)に我が国における対応方針を決定した。平成26年(2014年)4月に船舶職員及び小型船舶操縦者法の施行規則が改正され、講習の内容および登録講習施設の要件が規定された。

本学部は、講習施設ならびにECDISシミュレータ等の設備の整備を進めるとともに、IMOのモデルコースに準拠したカリキュラムを構築した。併せて、講習担当者は外部の既存のECDIS講習(GenericコースおよびType Specificコース)ならびにECDISシミュレータ提供メーカーによるECDIS講習インストラクター講習を受講し、講習実施について同施行規則の要件を充足させた。

平成26年8月に国土交通省から登録講習施設第6号として認可を得た。

カリキュラムは本学部における40時間と航海訓練所所轄の船舶実習における4時間とを合わせた44時間の内容としている。この時間配分に関しては、登録講習施設による違いがあり、継続的な検討課題となっている。

2. 平成27年度の講習について

(1) 概要

平成28年度乗船実習科に進学予定の航海マネジメントコースの4年生(計29名)を対象とした。班編成を第一班19名、第二班10名の二個班とした。それぞれ、12月7日(月)～11日(金)、および12月14日(月)～18日(金)の各5日間にて、各日程とも08:30～18:00の間の休憩時間を除いた8時間の講習を実施し、本学部にて担当する40時間分を実施した。

本講習では、複数のECDISシミュレータと水先研究棟操船シミュレータ内の実機を利用した。単一機種だけでは、どうしてもその機種のメニュー構成・操作への慣熟に傾倒する傾向になってしまうが、複数のメーカー・機種に接する機会を与えることによって、当初目論んだ「機能オリエンテッド」な内容の講習にすることができた。受講した学生にとって、今後、種々の別機種に接しても戸惑うことのない構え方・考え方を与えることができ、「Generic」講習として意義あるものになった。

(2) 英文証書の手配

外航船が各国の港に入港し安全性の検査を受ける際、航海当直にあたる乗組員の全員がECDISの訓練が済んでいることを示さなければならないことから、国土交通省指定の証書とは別途、英語表記の証書が必要となる。登録講習施設の申請者としての学長名の証書発行について学内の手配をした。

(3) 次年度以降に向けた改善検討

本年度の実施を踏まえ、以下を検討した。

- ①開催時期(12月第2週、第3週)を踏襲する。併せて、船舶実習3履修者の特別研究発表の日程調整の際の考慮事項とする。
- ②操船シミュレータに接続していないECDIS実機の深江丸への換装について提案した。
- ③講習内容(シラバス)を以下のように見直した。

表 ECDIS 講習の新スケジュール (案)

日 程	内 容	日 程	内 容
1 日目:午前 午後	ガイダンス, 総論, 関係条約・法の解説 基本操作の説明	4 日目:午前 午後	留意点振り返り 別機種操作: 必須機能の検索 (於: 水先教育研究棟), プランニングの演習
2 日目:午前 午後	基本設定, メンテナンスの説明 プランニングの説明	5 日目:午前 午後	ペーパーテスト テスト解説・講評, 操船シミュレータ演習
3 日目:午前 午後	モニタリングの説明 プランニングの演習		

Ⅱ. 練習船深江丸教育関係共同利用実施状況

第2期中期計画「7. 施設・設備・環境分野」には、平成25年度重点事項として、「練習船深江丸の代船設計、共同利用増加、学内管理制度の検討など、拠点化申請のための準備を行う。」ということから、平成25年12月に練習船深江丸教育関係共同利用準備委員会が開催され、深江丸の教育関係共同利用について検討が行われた。平成26年5月の練習船教育関係共同利用拠点化申請のために、11大学より参加申請を取り付け、平成25年10月より深江丸教育関係共同利用拠点の申請に向けての活動を開始し、平成26年6月に申請書が提出された。その審査の結果、平成26年7月31日に、文部科学大臣から、練習船深江丸が教育関係共同利用拠点の認定を受けた。認定拠点名は「グローバル海上輸送に関わる海事技術・海洋環境とヒューマンファクタの教育のための共同利用拠点」である。（添付資料参照）これを受けて、平成26年9月20日に、神戸大学本部で開催されている学長定例記者会見（第9回）において、同時に認定をうけた学内の他の共同利用拠点2施設とともにマスコミ各社に対して周知広報を行った（添付資料参照）。平成26年4月より本格的に開始した練習船深江丸における教育関係共同利用は、認定にともない、より充実を図るべく努力を継続している。

平成27年度の利用実績の一覧を次表に示す。

利用の大学等は13大学等の学部・研究科等にのぼり、科目数にして18科目であった。航海日数は24日、利用日数は28日であった。利用人数は、365人、利用者数は航海の延べ469人日、利用延べ568人日であった。

平成27年度 練習船深江丸 教育関係共同利用実績 一覧

受入 教員	期間	機関・学部・学科等	科目名	担当者	航海 日数	利用 日数	航海 日数 (機関 別)	利用 日数 (機関 別)	教 職 員	学 生	利 用 者 計	航海のべ (人日)	利用のべ (人日)
瀧	H27.5.15	大阪大学 人間科学部, 大学院人間科学研究科 人間行動学講座, 安全行動学研究分野	人間行動学実験実習Ⅱ	白井 伸之介 教授	1	1	1	1	3	17	20	20	20
矢野 瀧	H27.6.28~30	中京大学 心理学部 心理学科	応用心理学実習	向井 希宏 教授	2	3	2	3	4	25	29	58	87
村井	H27.7.6	兵庫県立大学 大学院工学研究科 電気系工学専攻	電子情報工学特別実験Ⅰ	小橋 昌司 准教授	1	1	1	1	3	13	16	16	16
若林	H27.8.3~6	大学コンソーシアムひょうご神戸(単位 互換)	神戸港と瀬戸内の産業と物流	尾下優子 講師 水谷淳 准教授 若林伸和 教授	3	4	3	4	3	3	6	18	24
瀧	H27.8.19~20	帝塚山大学 大学院心理科学研究科	心理科学基礎論Ⅱ	水野 邦夫 教授	2	2	2	2	2	18	20	40	40
若林	H27.9.16~17	甲南大学 フロンティアサイエンス学部 生命化学科	「科学と産業政策(集中)」 3年次・2単位	松井 淳 教授	2	2	2	2	3	19	22	44	44
岡村	H27.9.24	神戸大学 内海環境教育研究センター	公開臨海実習	兵頭 政幸 教授	1	1	1	1	3	7	10	10	10
若林	H27.10.5	甲南大学 フロンティアサイエンス学部 生命化学科	セルエンジニアリング特論(後)	西方 敬人 教授	1	1	1	1	1	15	16	16	16
藤本	H27.10.8	関西大学 商学部, 大学院商学研究科 商学科, 商学専攻	卒業研究及び博士前期課程 M国際交通論研究2	高橋 望 教授	1	1	1	1	1	9	10	10	10
瀧	H27.10.15	奈良大学 社会学部 心理学科	社会心理学演習Ⅱ(三)	三沢 良 講師	1	1	1	1	1	10	11	11	11
瀧	H27.10.16	大阪国際大学 人間科学部 人間健康科学科	セミナーⅢ	山口 直範 准教授	1	1	1	1	1	6	7	7	7
瀧	H27.10.19	神戸女学院大学 人間科学部 心理・行動学科	演習ⅡB(Jクラス)	矢野 円郁 准教授	1	1	1	1	1	16	17	17	17
瀧	H27.10.26	神戸女学院大学 人間科学部 心理・行動学科	演習ⅡB(Cクラス)	木村 昌紀 准教授	1	1	1	1	1	6	7	7	7
若林	H27.10.28~30	和歌山大学 システム工学部 精密物質学科	ナノサイエンス特論Ⅰ(3年生), 精密物質セミナーⅡ(4年生)	伊東 千尋 教授	2	3	2	3	4	22	26	52	78
三輪	H27.11.10~11	大阪府立大学 工学部機械系学類 海洋システム工学課程	船舶工学特殊講義	桃木 勉 教員	2	2	2	2	5	28	33	66	66
世良 瀧	H27.12.22	大阪大学 工学部・工学研究科 地球総合工学科・地球総合工学専攻	運動制御学/Theory of Motion and Control	長谷川 和彦 教授	1	1	1	1	1	44	45	45	45
世良	H28.1.18	大阪大学 工学部 地球総合工学科	船舶設計製図	長谷川 和彦 教授	0	1	0	1	1	37	38	0	38
若林	H28.2.8	明石工業高等専門学校	専攻科特別講義	神田 佳一 教授	1	1	1	1	1	31	32	32	32
					24	28	24	28	39	326	365	469	568

毎回の共同利用においては、下船前または、下船後にその大学等に依頼してアンケートを実施している。最初の数回は、記述式のみであったが、途中から次頁に示すとおり評点を付ける形のアンケート用紙を用い、利用学生全員に記載してもらった。また、引率教職員には、利用終了後数日の間に教員用の様式で記入してもらいメールにて送付を求めている。

練習船深江丸 教育関係共同利用 利用者アンケート（学生用）

大学等・学部学科等名： _____

科目名： _____

利用日： 平成_____年_____月_____日 学部・院前期・院後期 _____年
 ~ _____月_____日（_____泊_____日）

利用の概要・得られた成果等：

（いずれかの数字に○）

成果は、 5 4 3 2 1
 ← 大いにあった | どちらとも言えない | まったくなかった →
 どちらかと言えばあった どちらかと言えばなかった

船内でのプログラムまたは乗船（設備・居住性等）に関する問題点・改善提案等：

（いずれかの数字に○）

問題点（プログラム） 5 4 3 2 1
問題点（設備等） 5 4 3 2 1
 ← まったくない | どちらとも言えない | 多い →
 どちらかと言えばない どちらかと言えば多い

感想・その他（自由記述）：

全体として、今回の乗船・研修について：

（いずれかの数字に○）

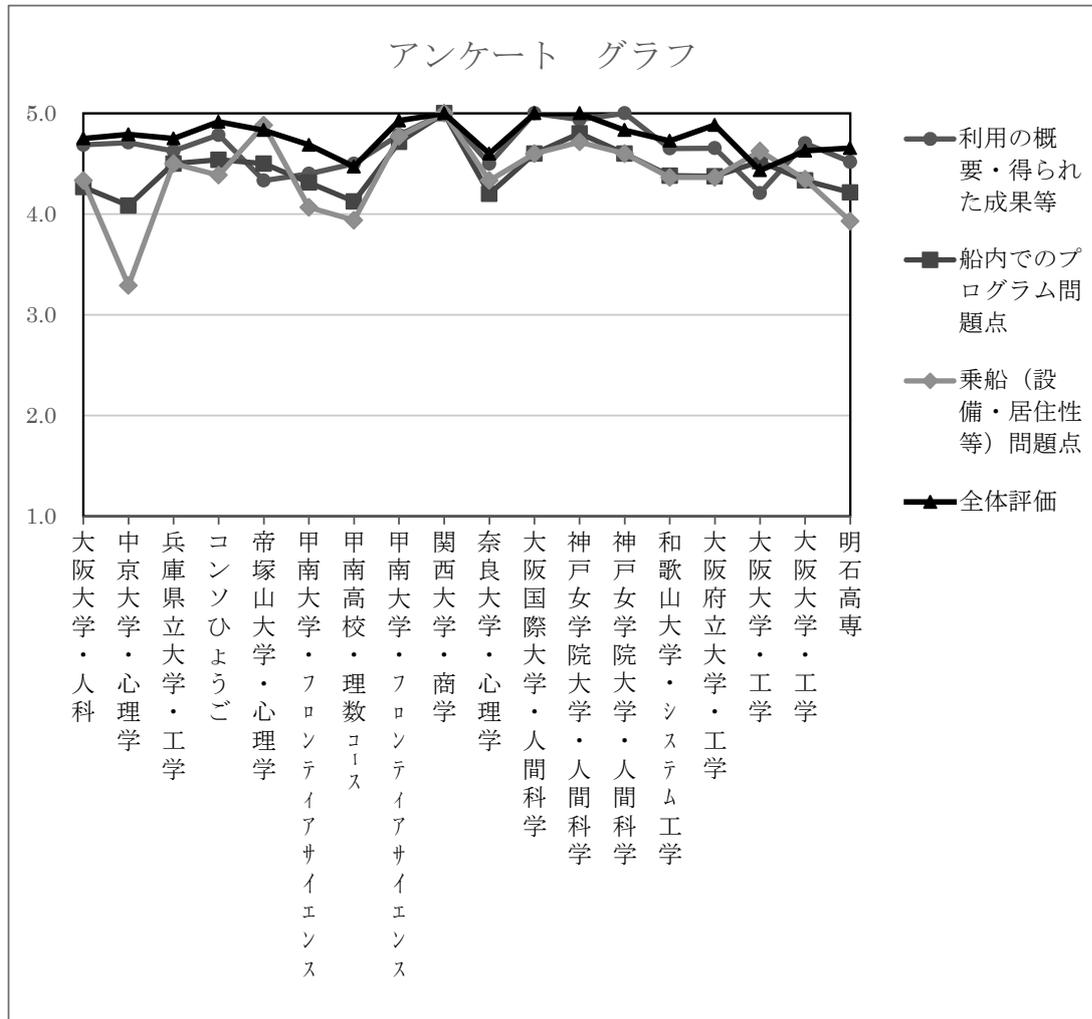
全体評価 5 4 3 2 1
 ← 満足 | どちらとも言えない | 不満 →
 どちらかと言えば満足 どちらかと言えば不満

（以上）

※各項目について、書ききれない場合は裏面に続けて記載してください。

実施したアンケートの集計結果を次に示す。

深江丸は練習船のため、学生居住区画や衛生設備などの環境は、一般のフェリーなどの旅客船に比べ良くないのは否めず、もっと厳しい評価を予想していたが、それほど問題ととらえていない結果が出ている。その他、成果や全体評価として、十分な評価を得ているととらえている。



つぎに、ある大学により利用時に実施したアンケートの記述欄から問題点を抽出した結果を示す。

学生のアンケートから抽出した問題点・改善提案の意見

階段が急である	6人
女子シャワー室の換気が悪い・換気扇等 が必要	4人
女子トイレ・シャワー・洗面台の数が少ない	4人
船内の地図があるとよい	3人
トイレの場所がわかりづらい	1人
居室の空調音が気になった	1人
居室のロッカーが狭い	1人
居室が狭く窮屈に感じた	1人
見学・実習する時間を長くして欲しい	3人
実習の間の休憩時間が短い	2人
説明が見えない・聞こえない	1人
ヘルメットが大きかった	1人

これらの意見をもとに、可能な点については対応を取っており、今後の利用における利便性等を図る努力も継続している。

共同利用拠点の認定期間は平成30年度（平成31年3月31日）までであり、その後も継続で認定されるよう、実績をあげるべく平成28年度以降も利用の促進、船内でのプログラムの充実を図ることとしている。

【添付資料】



26文科高第378号
平成26年7月31日

神戸大学
学長 福田 秀樹 殿

文部科学大臣 下村 博文



教育関係共同利用拠点の認定について（通知）

学校教育法施行規則第143条の2の規定に基づき、貴学の「大学院海事科学研究科附属練習船深江丸」を、下記により「教育関係共同利用拠点」に認定します。

なお、教育関係共同利用拠点審査委員会等における審査において、下記3のとおり意見がありましたので、今後の拠点活動の際に留意してください。

記

1. 教育関係共同利用拠点名

「グローバル海上輸送に関わる海事技術・海洋環境とヒューマンファクタの教育のための共同利用拠点（大学院海事科学研究科附属練習船深江丸）」

2. 認定の有効期間

平成26年7月31日 ～ 平成31年3月31日

3. 特記事項

グローバル海上輸送に関わる海事技術・海洋環境とヒューマンファクタの教育のための共同利用拠点としての今後の計画を着実に履行すること。

以上



第9回学長会見資料

海事科学研究科附属練習船深江丸の 「教育関係共同利用拠点」の認定について

海事科学研究科長 林 祐司 (はやし ゆうじ)

gm_katyo@maritime.kobe-u.ac.jp TEL 078-431-6201

このたび、神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船「深江丸」は、文部科学大臣より教育関係共同利用拠点（拠点名：グローバル海上輸送に関わる海事技術・海洋環境とヒューマンファクタの教育のための共同利用拠点）の認定を受けました。

練習船深江丸は、総トン数449トン、全長：50m、幅：10m、航行資格：近海区域・A2水域の商船系大型練習船であり、おもに海事科学部グローバル輸送科学科航海マネジメントコース、マリンエンジニアリング学科機関マネジメントコースの学生を対象とした学内船舶実習や、毎年度2回の研究航海など、教育・研究に利用しているほか、海事思想の普及にかかる公開講座その他の地域連携等のイベントも積極的に実施してきました。

教育関係共同利用拠点のうち練習船の類型には、深江丸を含めて全国で商船系2隻、水産系6隻の計8隻が認定されており（平成26年7月31日現在）、今回の拠点認定により、深江丸は、教育関係の利用を広く他大学へも開放し、施設としての練習船のより効率的な利用を実現してまいります。深江丸は、大阪湾および瀬戸内海を主な活動海域とする練習船として、また近畿圏において唯一の「世界につながる海の上の教室」として利用可能な共同利用拠点練習船であり、近畿圏を中心に、瀬戸内海に面する中国、四国、さらには全国の大学等に対して共同利用受け入れの門戸を広げています。また、共同利用航海では、他大学からの利用に備えて、神戸大学大学院保健学研究科の協力を得て、新たに看護師（看護師を意味する船舶運航における職名）を配乗するという体制の整備も行っています。

すでに、深江丸では過去10年以上にわたり、他大学からの教育利用を受け入れてきた実績があり（毎年2大学）、平成26年4月からは、拠点認定にむけて大幅な利用の増加を目指して共同利用を開始しました。平成26年度は、近畿圏を中心に16の大学学部、大学院研究科からの利用受け入れを予定しており、日帰りや1泊2日の航海で、計25日の共同利用の航海を計画しています。9月までに、10の学部・研究科からの利用をすでに実施しました。共同利用以外にも、神戸大学大学院理学研究科との連携による海洋開発に関わる新たな人材育成プログラムなどを予定し、練習船深江丸は今後も学内外ともに連携して教育・研究等への多角的な有効利用を目指しています。

なお、深江丸は、平成27年10月で船齢27年となり、老朽化は否めないため、共同利用の環境整備のためにも、速やかな代替船の新造に向けた活動を開始します。

■本件担当：

大学院海事科学研究科 教授・海技教育センター長 若林伸和 (わかばやし のぶかず)

tsf@cs.maritime.kobe-u.ac.jp TEL 078-431-6240

■事務担当：

大学院海事科学研究科企画係 gmsc_kikaku@office.kobe-u.ac.jp TEL 078-431-6211

練習船深江丸教育関係共同利用拠点の概要

神戸大学

(グローバル海上輸送に関わる海事技術・海洋環境とヒューマンファクタの教育共同利用拠点)

目指す教育効果

- ・人間科学・応用心理学のアプローチで問題解決できる人材育成
- ・海洋汚染防止等の技術開発ができる人材育成
- ・大規模制御システム等の研究開発ができる人材育成
- ・安全性・省エネルギー環境技術等の研究開発ができる人材育成
- ・計画立案能力・判断能力・問題解決能力をもった人材育成



練習船 深江丸

449総トン、全長：49.95m
 全幅：10m、実習定員：48名
 航行区域：近海・A2水域

専任乗組員8(教員2、職員6)
 応援乗組員4(教員)
 司厨員2

利用大学(予定を含む)

- | | | |
|-----------|----------|----------|
| 大阪府立大学 | 中京大学 | |
| 大阪大学 | 京都工芸繊維大学 | 和歌山大学 |
| 甲南大学 | 帝塚山大学 | 川崎医療福祉大学 |
| 兵庫県立大学 | 大阪国際大学 | 神戸学院大学 |
| 外国の交流協定大学 | など | |

